

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士（医学）      氏名 石川修平

審査担当者	主査	准教授	篠原信雄
	副査	教授	櫻木範明
	副査	教授	武蔵 学
	副査	教授	野々村 克也

## 学位論文題名

腎盂尿管癌症例における膀胱内再発・転移と予後に関する検討

本研究は、主研究において腎盂尿管癌に対する診断的尿管鏡が、その後の臨床経過に悪影響を及ぼすかについて検討した。また基礎研究において転移能の異なる腫瘍由来の腫瘍血管内皮細胞（TEC:Tumor endothelial cell）を用い、その特性を比較検討した。主研究の結果から、診断的尿管鏡が膀胱内再発や癌特異的生存率に負の影響を及ぼさない事を明らかにした。また基礎研究の結果、低転移性と比較して高転移性腫瘍由来の TEC は高い増殖能と運動能を有し、血管新生関連因子の遺伝子発現が亢進していることを示し、転移能の異なる腫瘍間ではそれぞれの腫瘍血管内皮細胞の生物学的特性にも差があることを明らかにした。

審査において、主研究について櫻木教授より尿管鏡生検が膀胱内再発に及ぼす影響の有無について、武蔵教授より腫瘍部位が膀胱内再発に影響を及ぼす機序について、野々村教授より腫瘍部位によって尿管腫瘍の特徴に差が無かったかについて、篠原准教授より腎盂尿管癌のリンパ節廓清の意義についての質問があった。また基礎研究において、櫻木教授より TEC の由来について、武蔵教授より TEC の Stemness について、野々村教授からは虚血で生じる血管新生の特徴について、篠原准教授より TEC がそれぞれの特性を獲得する機序についての質問があった。いずれの質問に対しても、申請者は自身の研究結果や過去の報告を引用して、おおむね妥当な回答をした。

主研究に関する論文は、診断的尿管鏡がその後の臨床経過に悪影響を及ぼさない事を明らかにした初めての論文であり、泌尿器科医が尿管鏡を施行する際に抱く懸念を払拭した点が高く評価された。また基礎研究で、転移能の異なる腫瘍間ではそれぞれの腫瘍血管内皮細胞の生物学的特性にも差があることを初めて明らかにした点が高く評価された。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や単位取得なども併せ申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。